

一定の投資性金融商品の販売・販売仲介に係る「重要情報シート」（個別商品編）

2024/1/16現在

1. 商品等の内容（当金庫は、組成会社等の委託を受け、お客様に商品の販売の勧誘を行っています）

金融商品の名称・種類	投資のソムリエ・証券投資信託
組成会社（運用会社）	アセットマネジメントOne株式会社
販売委託元	アセットマネジメントOne株式会社
金融商品の目的・機能	信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行います。
商品組成に携わる事業者が想定する購入層	主に国内外の公共債、株式および不動産投資信託証券にマザーファンドを通じて投資します。基準価額の変動リスクを年率4%程度に抑えます。
パッケージ化の有無	パッケージ化商品ではありません。
クーリング・オフの有無	クーリング・オフ（契約日から一定期間、解除できる仕組み）の適用はありません。

- （質問）
- ① バランス型は、むしろ様々な商品知識が要求されて難しくないですか。
  - ② それぞれの資産を別々に購入することとの違いはなんですか。
  - ③ 基準価額の変動率が抑えられる仕組みは、どのようになっていますか。

2. リスクと運用実績（本商品は、円建ての元本が保証されず、損失が生じるリスクがあります）

損失が生じる リスクの内容	<資産配分リスク>資産配分比率が高い資産の価値が下落した場合等は、基準価額の下落要因になります。
	<価格変動リスク>株価は、政治・経済情勢、発行体の業績、市場の需給等を反映して、短期的・長期的に大きく変動する。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
	<金利リスク>金利変動により公社債等の価格が下落すること。一般的に金利低下局面では組入れた公社債等の価格は値上がりし、金利上昇局面では値下がります。
	<リート価格変動リスク>リートの価格は、基準価額の下落要因となります。リート価格は、リートが投資対象とする不動産等の価値、当該不動産等による賃貸収入の増減、不動産市場の変動、景気や株式市況等の動向などによって変動します。
	<為替リスク>為替相場の円高は、基準価額の下落要因となります。
過去1年間の収益率	-4.0%（2023年7月末現在）
過去5年間の収益率	平均-0.2% 最高8.3%（2019年11月） 最低-13.1%（2022年12月） （2018年8月～2023年7月の各月末における直近1年間の数字）

※ 損失リスクの内容の詳細は契約締結前交付書面【交付目論見書】の「投資リスク」、運用実績の詳細は【交付目論見書】の「投資リスク」に記載しています。

- (質問) ④ 上記の中で、どのリスクが最も影響が大きいですか。
- ⑤ リバランスとは、どのような意味ですか。

### 3. 費用（本商品の購入又は保有には、費用が発生します）

(税込)

購入時に支払う費用 (販売手数料など)	窓口購入	インターネット購入
	*インターネット専用商品	2.31%
継続的に支払う費用 (信託報酬など)	信託報酬：年1.54%	
運用成果に応じた費用 (成功報酬など)	ありません。	

※ 上記以外に生ずる費用を含めて詳細は契約締結前交付書面【交付目論見書】の「手続・手数料等」の項目に記載しています。

- (質問) ⑥ 信託報酬や信託財産留保額は、販売会社によって異なりますか。
- ⑦ 手数料がかかる商品は購入せず、iDeCoだけにする方が良いですか。

### 4. 換金・解約の条件（本商品を換金・解約する場合、一定の不利益を被ることがあります）

この商品の償還期限はありません。但し、繰上償還を行う場合があります。

この商品をお客様が換金・解約しようとする場合、解約手数料・信託財産留保額ははありません。

市場の閉鎖、海外の取引所・銀行の休業日の場合等、換金・解約ができないことがあります。

※ 詳細は契約締結前交付書面【交付目論見書】の「手続・手数料等」の項目に記載しています。

- (質問) ⑧ 解約と買取ではどう違いますか。

### 5. 当金庫の利益とおお客様の利益が反する可能性

当金庫がお客様にこの商品を販売した場合、当金庫は、お客様が支払う費用（販売手数料、信託報酬）のうち、組成会社等から0.77%の手数料を頂きます。これは販売時のコンサルティング（販売仲介など）の対価としていただきます。

当金庫は、この商品の組成会社等との間で出向等の人間関係および資本的関係がありません。

「重要情報シート」のフォーマットのとおり、当金庫の営業職員に対する業績評価上、この商品の販売が他の商品より高く評価されるようなことはありません。

※ 利益相反の内容とその対処方針については、ホームページ「顧客本位の業務運営に関する原則」の「取組方針」をご参照ください。

- (URL) <https://www.numashin.co.jp/policy/files/fiduciaryduty.pdf>

- (質問) ⑨ あなた方のお奨めが、この商品と考えればよいですか。

## 6. 租税の概要（NISA、iDeCoの対象か否かもご確認ください）

分配時、配当所得として普通分配金に対して20.315%、換金（解約）時および償還時は、譲渡所得として、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%が課税されます。

※ 詳細は契約締結前交付書面【交付目論見書】の「手続・手数料等」に記載しています。

## 7. その他参考情報（契約にあたっては、当金庫Webサイトに掲載された次の書面をよくご覧ください）

- ・ 販売会社（当金庫）が作成した契約締結前補完書面【目論見書補完書面】

（URL①） <https://www.numashin.co.jp/kojin/uno/nyo/files/mokuromisyo.pdf>

※ PDF形式で掲載しています。

①



- ・ 組成会社が作成した【目論見書】

（URL②） <http://www.am-one.co.jp/fund/summary/313860/>

※ リンク先は、当金庫が運営するホームページではありません。

当金庫はリンク先の表記等について保証するものではなく、一切の責任を負いません。

②



**契約締結に当たっての注意事項等をまとめた契約締結前交付書面【目論見書交付書面】、金融商品の内容等を記した【目論見書】については、ご希望があれば、紙でお渡します。**



商号等/沼津信用金庫 登録金融機関 東海財務局長(登金)第59号

<質問回答例>

投資のソムリエ

	<質問>	<回答例>
①	バランス型は、むしろ様々な商品知識が要求されて難しくないですか。	個々の資産について把握することも大切ですが、本商品の資産構成比率、各資産の相関性に着目して共倒れを回避する発想、などにまず着目されるとよいでしょう。
②	それぞれの資産を別々に購入することとの違いはなんですか。	バランス型商品は、各資産の構成比率を一定割合に抑えていくリバランス機能がある点がメリットといえます。
③	基準価額の変動率が抑えられる仕組みは、どのようになっていますか。	あらかじめ設定されている基準により、①安定資産の半分を現金化、②リスク性資産をゼロにして全体の1/2を現金化、の二段階で運用ポートフォリオを調整します。
④	上記の中で、どのリスクが最も影響が大きいですか。	どのリスクも発生する可能性・頻度について優劣はつけにくいと考えます。ただしこれらが同時に発生するリスクが低い(相関性が高くない)点も考慮されます。
⑤	リバランスとは、どのような意味ですか。	株式・債券などの構成比率を一定割合に留めて安定運用するための措置です。例えば株式の時価評価が大きくなったら一部を換金して株式の比率を下げたりする事で構成比の見直しを行うことをいいます。
⑥	信託報酬や信託財産留保額は、販売会社によって異なりますか。	信託報酬は運用会社・信託銀行も受け取るものであり、また信託財産留保額はファンド資金に残すものですから、料率は商品として一律に設定されています。
⑦	手数料がかかる商品は購入せず、iDeCoだけにする方が良いですか。	お客様の財産形成の観点でiDeCoだけでは不十分ということ、また換金が自由であることなどからは、手数料がかかってもメリットはあるかもしれません。
⑧	解約と買取ではどう違いますか。	ファンド資金の側からみると、解約は口数・資金が減ります。一方で買取は別の投資家、具体的にはお客様への販売会社はその口数を買取るため、減少は生じません。ただし、お客様にとっての受取額・課税関係に相違はありません。
⑨	あなた方のお奨めが、この商品と考えればよいですか。	お客様ごとに、資産の状況やライフプランの考え方は異なりますから、一律に同じ商品を推奨することはありませんので、ご安心ください。